

今月のトピック

睡眠時無呼吸症候群治療センターが新規開設されました

SAS治療センター長 木村 弘

複十字病院ではこのたび睡眠時無呼吸症候群治療センター（SAS治療センター）が呼吸器内科を中心とした各診療科・部門と健康管理センターとの連携のもとに開設されました。SAS治療センターの設立目的は、【治療医学・予防医学】の観点からは正確な診断を行い、動脈硬化、心筋梗塞、脳梗塞などの循環器トラブルの発症予防とそれによる死亡率の低下です。また【社会医学の観点】からは、日中の眠気起因する交通事故や作業・学習効率低下に対する治療であり、診断された患者さんの8割ではCPAP（シーパップ）というマスクをつけて眠ることで夜間の熟睡がえられ、その結果日中の眠気も消失しQOLが改善します。肥満を伴う典型例では、無呼吸が起こると低酸素血症が生じますが、脳が危険を察知すると、脳波上で覚醒脳波が出現し激しいいびきを伴う過換気が起こります。そのために深い良質な睡眠に入ることができず、一晩中浅い睡眠と中途覚醒を繰り返すことになります。その結果眠気が日中に持ち越してしまいます。

米国における一般住民を対象とした1990-2008年にわたるSAS有所見患者の追跡研究では、SASの主死因は循環器トラブルであり、重症SAS（無呼吸指数（1時間あたりの無呼吸頻度が30回以上）患者の死亡リスクはSASを認めない人（無呼吸頻度が5回以下）の5.2倍にのぼることが報告されました（Sleep, 2008）。また、交通事故率においては、国内外の報告ではSASがあると約7倍に事故率が増加することが明らかになっています。ここで問題なのは、SAS患者本人が社会的に迷惑をかけるリスクを背負っていることを必ずしも認識できていないことです。

これまで私どもが経験した最も長く呼吸が停止した患者さんは約2分40秒にわたり呼吸が停止し、血圧は約1.5倍に跳ねあがっていました。SAS患者ではパルスオキシメーターによる動脈血酸素飽和度（SpO₂）は、日中は95-98%と正常であっても、夜間の無呼吸中は70%以下に低下する患者さんも多く、重症者では50%以下まで低下することもあります。健康な方が、富士山頂にいきなり登ったときのSpO₂は約75%、エベレスト山頂でのSpO₂は約48%ですので、8,800メートル級のエベレスト山頂以上の成層圏に近い低酸素レベルに睡眠中にさらされていることになります。

SAS治療センターの診療は、睡眠専門医もしくは睡眠医療に習熟した呼吸器内科医がおこなっています。診断（簡易検査／ポリソムノグラフィー；PSG）、治療（CPAP、口腔内装具、心不全治療 など）、併存症の管理（心不全、甲状腺機能低下症、SASとCOPDが合併したオーバーラップ症候群 など）にわたります。SASの原因としては、患者さんの多くは肥満が関連します。一方で心不全や甲状腺機能低下症の患者さんも高率にSASを引き起こします。夜間のいびきが強く日中のだるさを感じる方は、まずSASのスクリーニング検査（自宅での診断）を受けていただき、SASがはっきりした場合は1泊の入院のうえで精密検査であるPSGを行います。

患者さんご自身、もしくはご家族でSAS症状が気になる方がおいででしたら、どうか担当の先生にご相談頂き、気楽にご受診下さい。また先生方には、SASが疑われる患者さんのご紹介をよろしくお願い申し上げます。基本的にCPAP管理は当院で行いますが、高血圧、糖尿病や脂質異常症などの治療はご紹介頂いた地域の先生方をお願いしたいと考えております。

東京都病院協会によるCOVID-19禍における 病院BCP作成のための指針

一般社団法人東京都病院協会会長 **猪口 正孝**
病院BCP作成のための指針作成ワーキンググループ座長 **大田 健**

拝啓 平素は当協会の活動にご協力いただき、厚く御礼を申し上げます。

この度、当協会では、COVID-19禍における病院BCP作成のための指針を作成いたしましたので、以下ご案内申し上げます。

本方針は新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）による感染症（COVID-19）への適切な対処について、現場で実行できる内容にすることを旨とし、ワーキンググループを組織し作成したものです。

また本指針の作成にあたり、当協会の外部から国立国際医療研究センター病院AMR臨床リファレンスセンターの具 芳明先生と東京都福祉保健局健康安全研究センターの中坪 直樹疫学情報担当課長にも加わっていただき、わかりやすく実効性の高いものとなりました。会員諸施設の皆様の院内感染対策の一助になれば幸いです。

敬具

■ 東京都病院協会によるCOVID-19禍における病院BCP作成のための指針について

東京都病院協会ホームページ>重要なお知らせ>東京都病院協会によるCOVID-19禍における病院BCP作成のための指針について

https://tmha.net/important/20210219_guideline.html



■ 東京都病院協会によるCOVID-19禍における病院BCP作成のための指針

https://tmha.net/user/media/tmha/page/iryo_info/tmha_COVID-19_infection-control-guidelines.pdf

お問合せ：東京都病院協会 事務局

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-5 東京都医師会館404号

TEL：03-5217-0896 FAX：03-5217-0898

E-Mail tmha@mri.biglobe.ne.jp



大規模災害を想定した訓練を実施しました

2021年3月25日、当院の呼吸器外来で東京都看護協会認定災害ナースである職員の指導のもと、震度6強の大きな地震を想定した災害訓練を実施しました。

日中、呼吸器外来の診療が行われている中で、医師、看護師、事務員が、震災時初期行動マニュアルに基づき、具体的な対応が示されたアクションカードを使って、人的被害の確認、被害状況の確認・報告、二次被害対策・避難経路の確保など、それぞれの役割を務めながら、大規模な災害に備えて訓練に参加しました。



わた なべ とし あき
渡辺 俊明

●配属先／

放射線診療部長
(PET・核医学)

▶患者さんへのメッセージ

4月1日付で放射線診療部 PET・核医学科部長として入職いたしました渡辺俊明と申します。出身は新潟県上越市で、昭和57年に弘前大学を卒業、昭和61年に弘前大学大学院を卒業後、東京大学放射線科に入局。核医学部門に所属し、臨床の傍らコンピューターを利用した医用画像処理などの研究を行って参りました。その後、西新潟中央病院、公立昭和病院勤務を経て、今年度より当院でPET/CTを含む核医学診療を担当することになりました。

グルコース類似物質であるフルオロデオキシグルコース (FDG) を利用したFDG-PET/CTでは、早期胃癌以外の悪性腫瘍の病期診断や再発診断などに関して有用な画像情報を得ることができ、他の核医学の分野でも種々の臓器の機能や病態を知ることのできる有用な検査が数多くあり、登録医を始め多くの医療機関との共同利用を目指しております。放射線診療部や他の部門の素晴らしいスタッフとともに一丸となって、核医学診療に取り組んで行きたいと考えております。

皆様方にはご指導ご鞭撻を賜りながら、患者さんにとって安心安全な医療を実践し、院内の核医学診療、さらには地域医療に貢献できるよう努力して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

かわ むら みつ のぶ
川村 光信

●配属先／

健康管理センター
副センター長

▶患者さんへのメッセージ

4/1より健康管理センターで勤務することになった川村光信と申します。これまでは糖尿病・内分泌代謝内科専門医として過ごしておりました。

1979年の旭川医科大学卒（1回生）です。卒後直ぐ上京して、千代田区飯田橋の東京通信病院に入職しました。途中2年間の米国留学、数か月の中国への招聘渡航がありますが、その他はほとんど通信病院と関連病院である東京医科歯科大学（臨床教授、非常勤講師）で臨床・教育・研究を続けました。2018年、通信を定年退職した後、一臨床医として働く気持ちになり、つるかめクリニック（新宿・ミラザ新宿・小金井）、報道健保診療所などで勤務していました。しかし、報道健保がコロナで閉院になったため、興味のある予防医学を行うこととし、当院へ入職しました。前クリニックでも多少健管業務はしていましたが、本院の業務は大変充実しています。気を引き締めて様々な部門の方々と協力して地域住民の健康増進、病気の早期発見に努めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

かわ かみ とおる
川上 徹●配属先／呼吸器センター呼吸器外科
主任

●出身地／東京都

●出身大学、卒業年／東北大学
2009年卒

▶大学卒業後の主な経歴

岩手県立中央病院で初期研修、外科研修を終了後、東北大学大学院にて博士課程修了。その後、青森県立中央病院、藤田医科大学で勤務。

▶専門医・認定医資格

日本外科学会専門医、日本呼吸器外科学会専門医、肺がんCT健診認定機構認定医

▶趣味及び特技

ゴルフ

▶患者さんへのメッセージ

丁寧に診察し、病状にあった適切な医療を行うように心がけます。

こ とう あつ き
後藤 充希

●配属先／消化器センター消化器外科

●出身地／東京都

●出身大学、卒業年／杏林大学
2018年卒

▶大学卒業後の主な経歴

杏林大学医学部付属病院で初期研修後、同病院消化器・一般外科に入局。外科医として勤務。

▶専門医・認定医資格

外科専攻医

▶趣味及び特技

映画鑑賞、ゲーム、ラーメン食べ歩き、水泳、スノボ

▶患者さんへのメッセージ

患者さんに寄り添う優しい外科医を目指して頑張ります。よろしくお願いいたします。

あ べ た ろ う
阿部 太郎

- 配属先／呼吸器センター呼吸器内科
- 出身地／新潟県
- 出身大学、卒業年／岩手医科大学
2017年卒



▶大学卒業後の主な経歴

岩手医科大学附属病院で初期臨床研修を修了後、2019年に杏林大学医学部附属病院呼吸器内科に入局。

▶専門医・認定医資格

なし

▶趣味及び特技

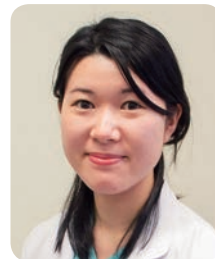
歴史全般、喫茶店巡り

▶患者さんへのメッセージ

患者さんの症状に対して、適切な医療を提供できるように心がけております。よろしくお願い致します。

す が み ゆ り
須賀 実佑里

- 配属先／呼吸器センター呼吸器内科
- 出身地／埼玉県
- 出身大学、卒業年／日本医科大学
2016年卒



▶大学卒業後の主な経歴

日本医科大学付属病院初期臨床研修、日本医科大学付属病院、日本医科大学多摩永山病院、日本医科大学千葉北総病院、東京山手メディカルセンター等 勤務

▶専門医・認定医資格

内科専攻医、呼吸器内科専攻医

▶趣味及び特技

弓道

▶患者さんへのメッセージ

日々アップデートした診療を安心して受けて頂けるよう心がけています。

や ま だ ひ ろ し
山田 裕士

- 配属先／糖尿病・生活習慣病センター
- 出身地／東京都
- 出身大学、卒業年／日本医科大学
2011年卒



▶大学卒業後の主な経歴

東京医科歯科大学附属病院で初期臨床研修修了。自治医科大学附属病院、茨城県立中央病院を経て、日本医科大学付属病院糖尿病・内分泌代謝内科入局

▶専門医・認定医資格

認定内科医、糖尿病専門医、内分泌専門医

▶趣味及び特技

映画鑑賞、スポーツなど

▶患者さんへのメッセージ

患者さんやご家族の考えを伺いながら診療することを心がけております。よろしくお願い致します。

ふ く な が え つ や
福永 悦也

- 配属先／糖尿病・生活習慣病センター
- 出身地／神奈川県
- 出身大学、卒業年／日本医科大学
2017年卒



▶大学卒業後の主な経歴

日本医科大学付属病院初期研修修了後、同糖尿病・内分泌代謝内科入局。日本医科大学武蔵小杉病院、町立八丈病院、日本医科大学千葉北総病院糖尿病・内分泌代謝内科を経て当院。

▶専門医・認定医資格

なし

▶趣味及び特技

サクソ演奏

▶患者さんへのメッセージ

2021年4月から複十字病院にきました、福永悦也と申します。糖尿病をはじめとした生活習慣病治療を通じ、地域のみなさまが健康に過ごせる時間をつくるお手伝いをさせて頂きたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



複十字病院は
公益財団法人結核予防会の病院です

予約・紹介のご案内

■受付時間

平日 8:30~17:00 土曜日 8:30~12:00

■医療機関・紹介状をお持ちの患者さんのご予約

電話 042-491-9128

FAX 042-491-3553

■再診・初診（紹介状なし）のご予約

電話 042-491-6228

複十字病院

〒204-8522 東京都清瀬市松山3-1-24

代表電話 042-491-4111

代表FAX 042-492-4765

交通のご案内

■電車でお越しの方

・西武池袋線「清瀬駅南口」より徒歩12分

または、バス「南口2番乗り場」より3つ目「複十字病院前」下車

・JR中央線 武蔵小金井駅より「清瀬駅南口ゆき」バス「保育園入口」下車
バス停より徒歩5分

■お車でお越しの方

・小金井街道「清瀬高校入口」信号を曲がり 西に300メートル

・所沢街道「全生園東」信号を曲がり病院通りを東北に2キロメートル